

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

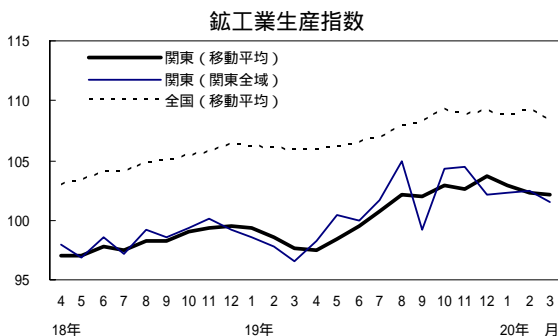
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）	
景況判断	緩やかに回復	回復の動きに足踏みがみられる	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	改善の動きに一服感がみられる	改善の動きに足踏みがみられる	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、半導体製造装置が不調であったため、2四半期連続で減少している。化学は、一部工場の火災事故の影響等から、スチレンモノマーやフェノールなどの樹脂を中心に、減少している。輸送機械は、乗用車に使用する駆動伝導・操縦装置部品が低調であったため、4四半期ぶりに減少している。情報通信機械は、携帯電話の新規モデルが好調であったものの、固定通信装置が前期の反動で振るわなかったため、7四半期ぶりに減少している。電気機械は、引き続き半導体IC測定装置の海外需要が低調であることやセパレート型エアコンが低調であったことから、減少している。



- (備考) 1. 季節調整値。関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。
 3. 関東は12年基準、全国は17年基準。

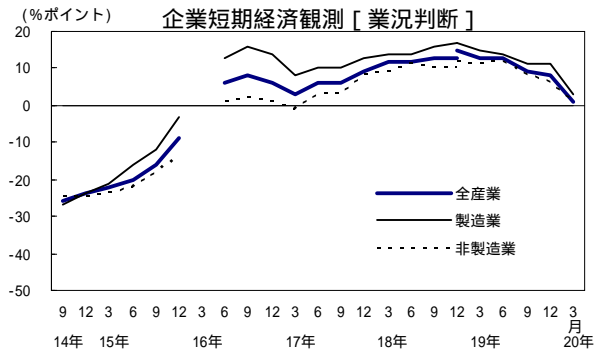
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	0.4	4.8	4.4	1.0
化学	13.7	1.0	2.6	2.2	2.5
輸送機械	11.3	5.6	5.1	3.2	6.1
情報通信機械	8.6	3.1	1.4	3.1	36.8
電気機械	7.9	3.6	4.2	4.5	0.6
鉱工業	100.0	1.6	1.4	1.3	3.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1~3月期は速報値。
 3. 1~3月期の化学の生産、出荷は、1月、2月確報値の平均より算出。在庫は、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

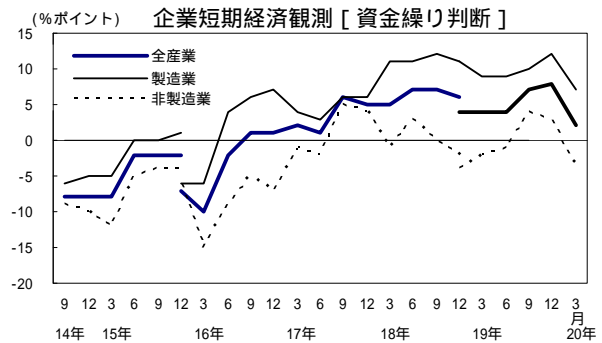
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

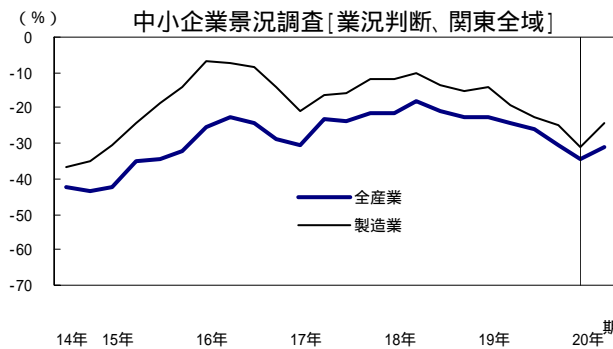
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「製造業においては、原油高騰、原材料高騰により苦しい経営を余儀なくされており、特に自動車、電機関連において円高等の影響で受注減少傾向にある(金融業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

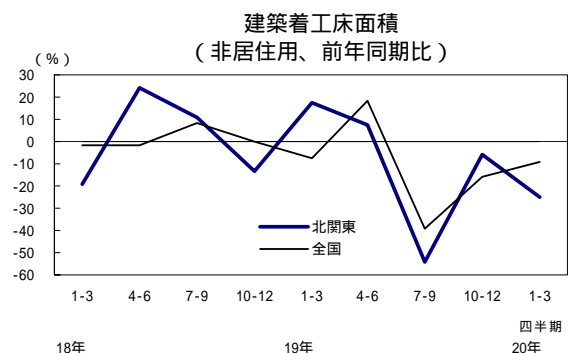
(3) 19年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	7.2(8.6)	6.4
製造業	0.9(3.2)	1.7
非製造業	19.1(27.4)	16.3

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

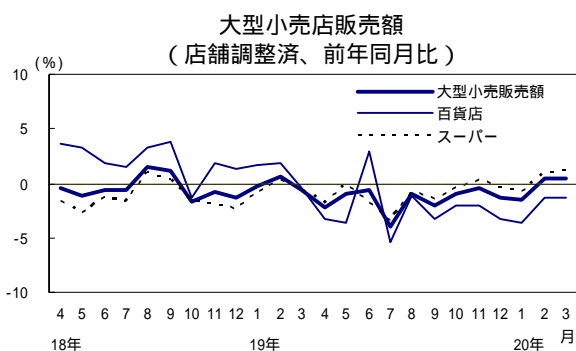
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、催事や改装により飲食料品が好調であったが、主力の衣料品が伸び悩み、前年を下回った。2月は、気温が低かったため、紳士物コート・ジャケット等が好調であったが、春物衣料の動きが鈍く、前年を下回った。3月は、天候が良く、UVケア商品等のその他商品は好調であったが、入学卒業用のフォーマル用品の動きが鈍いなど、衣料品全般及び身の回り品が低調であったため、前年を下回った。

スーパーは、衣料品は振るわなかったが、円高還元セール等により飲食料品は好調であり、全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

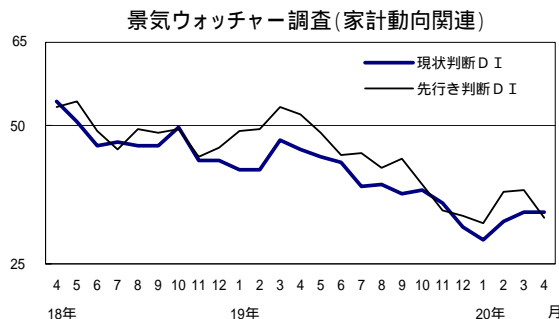
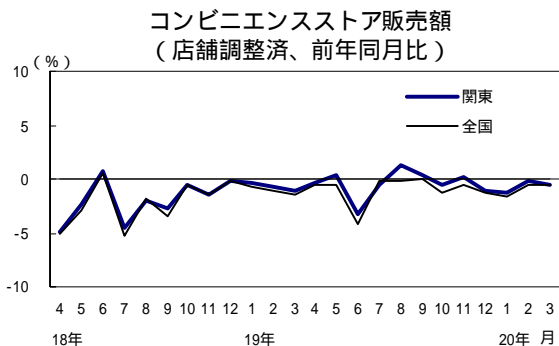
「来店頻度は増えているものの、買上点数は減少傾向にある。あらゆる食品の値上げで可処分所得が減ったためか、メモやチラシを持ちながら買物をする光景が増え、消費者のかつてないほど価格に対する敏感さと慎重な買物姿勢がうかがえる(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	1.3	2.3	0.9	0.3
百貨店	1.4	3.5	2.6	2.2
スーパー	1.3	1.9	0.3	0.4
コンビニ	1.1	0.3	0.5	0.7
景気ウォッチャー	44.5	38.6	35.4	32.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

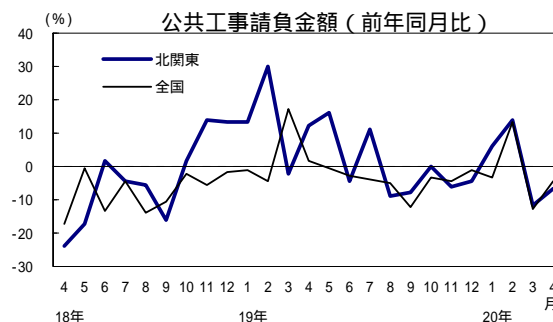
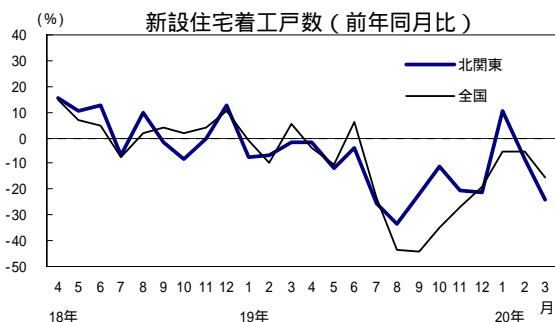
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

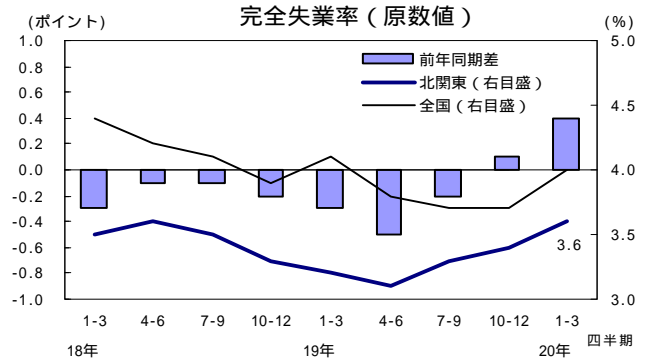
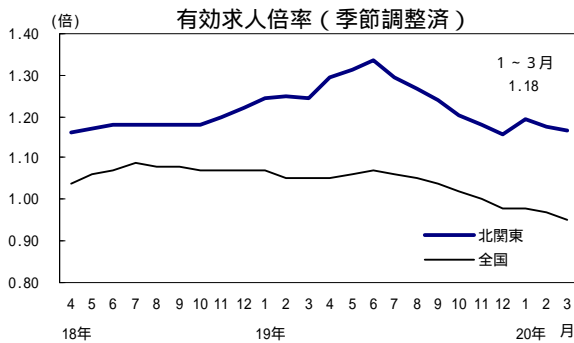


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

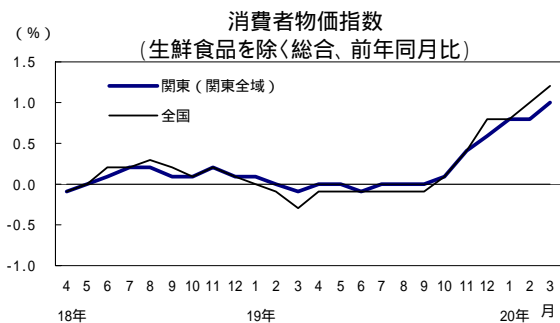
「新規求人数、有効求人数共に前年同月を約20%下回っており、景気の先行きが不透明のなか、模様眺めの状態が続いている（職業安定所）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額が減少しているものの、件数はおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	223	192	196	209	65
(前年比)	45.8	22.3	2.6	0.0	13.3
負債総額	1,037	875	1,221	1,064	115
(前年比)	9.9	6.9	13.1	4.9	72.9



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・天候不順により園芸関連品のスタートが遅い。雨天時の来店減少率が前年より高く、消費マインドの低下が表れている。ガソリン携行缶の売行きが月末に上がるなど、ガソリン価格に対しての反応は早く、消費の不安定要素を増長させている（住関連専門店）。

<先行き>

- ・久しぶりに新型車の投入があり、来場者数の増加が望める（乗用車販売店）。

景気ウォッチャー調査（合計）

